

## 平成31年度 継続研究開発課題

研究課題名	研究内容	採択年度 研究期間	研究機関名	研究代表者	連携消防機関等
地震火災時の不完全な覚知火災情報に基づくリアルタイム避難誘導支援に関する研究	大地震時の市街地火災を想定し、消防が覚知している火点からの延焼予測に加え、未覚知の火点や時間遅れで発生する火点による避難経路遮断のリスクを考慮して、安全な避難経路をリアルタイムに導出し、その情報をホームページ等へ表示することができるシステムを開発する。	平成30年度 3年間	筑波大学	糸井川 栄一	東京消防庁
危険物屋外貯蔵タンクの津波・水害による滑動等対策工法の確立	タンク本体の津波・水害対策として、アンカー等により滑動及び漂流を防止・軽減する工法について、シミュレーションや模型実験により検証を行い、設計・施工方法をまとめる。	平成29年度 3年間	東電設計株式会社	藤井 直樹	静岡市消防局
緊急度判定プロトコルの精度の向上・現場での活用に関する研究	119番通報時の緊急度判定支援ツールを開発し、精度の向上を図るとともに、地域包括ケアシステムにおける搬送先医療機関選定と搬送手段に関するガイドラインを策定する。	平成29年度 3年間	東京大学	森村 尚登	東京消防庁 横浜市消防局 堺市消防局 北九州市消防局
消防活動時の心肺負荷状態推定手法の高度化とプロトタイプ計測器の開発	現場活動時における隊員の心肺機能の負荷状態に関する指標を安静時と比較するとともに、勤務当日に本人が感じている体調の情報を組み合わせ、隊員のストレス情報をグラフ化して部隊内でリアルタイムに共有するシステムの基盤を構築する。	平成30年度 2年間	横浜国立大学	岡 泰資	横浜市消防局
消防隊員の身体負荷が活動安全に与える影響に関する研究	熱中症の発症リスクが高い災害現場における、隊員のバイタルデータに関する測定手法と、これを遠隔でモニタリングする技術の開発を行うとともに、活動期ごとの体温冷却方法を研究する。	平成30年度 2年間	学校法人 東京理科大学	水野 雅之	東京消防庁
ドローンで取得した可視・不可視情報の提示とその実践的搜索活動に関する研究	ドローンを用いて、カメラによる映像情報とともに、行方不明者が所持するスマートフォン等からの無線LANやBluetoothの電波情報を取得して、要救助者の位置を分析するためのシステムを開発する。	平成30年度 2年間	奈良先端科学 技術大学院大学	櫻原 茂	高知市消防局
都市部慢性疾患高齢者における救急搬送モデル実装を目的とした探索的研究	高齢者の患者を重症度と緊急度に応じて適正かつ迅速に医療機関へ搬送するための統計学的モデルを構築するとともに、実際の搬送データを基にモデルの検証を行う。	平成30年度 2年間	横浜市立大学	竹内 一郎	横浜市消防局